

ご存知でしたか 思っていたほど、なぜ年金は貰えない！！

☆厚生年金40年加入（40年間掛けた場合）の試算

どんなに稼いでも、**月の年金額最高は約25万円**（一人分）。

【報酬月額平均65万円（最高）で年額約780万円＋賞与

＝合計約960万円であった場合、**月の年金額最高は約25万円**貰える】

（これって夢また夢）

☆日本年金機構が公表している

『夫婦2人分』の平均的な年金合計は（40年間加入として）

「国民年金 + 厚生年金 + 奥さんの国民年金」 = **約22万円**

（これが現実）

ご注意：年金支給額は、一人ひとり違いますし、試算年によっても変わります。
この資料の試算はあくまで参考としてお使いください。
詳しいことは、日本年金機構でご確認ください。

最高年金額

老齢厚生年金の受給額は支払ってきた保険料に応じて決まるため
基本的には現役時代の年収が多い人ほど
また加入期間が長いほど多くの年金を受け取れます。

ただし、保険料の計算の基礎となる標準報酬月額と標準賞与額には
上限があります。

どんなに長期間に渡って、高額所得者でも
月額年金の上限があります。

でも現実的に無理

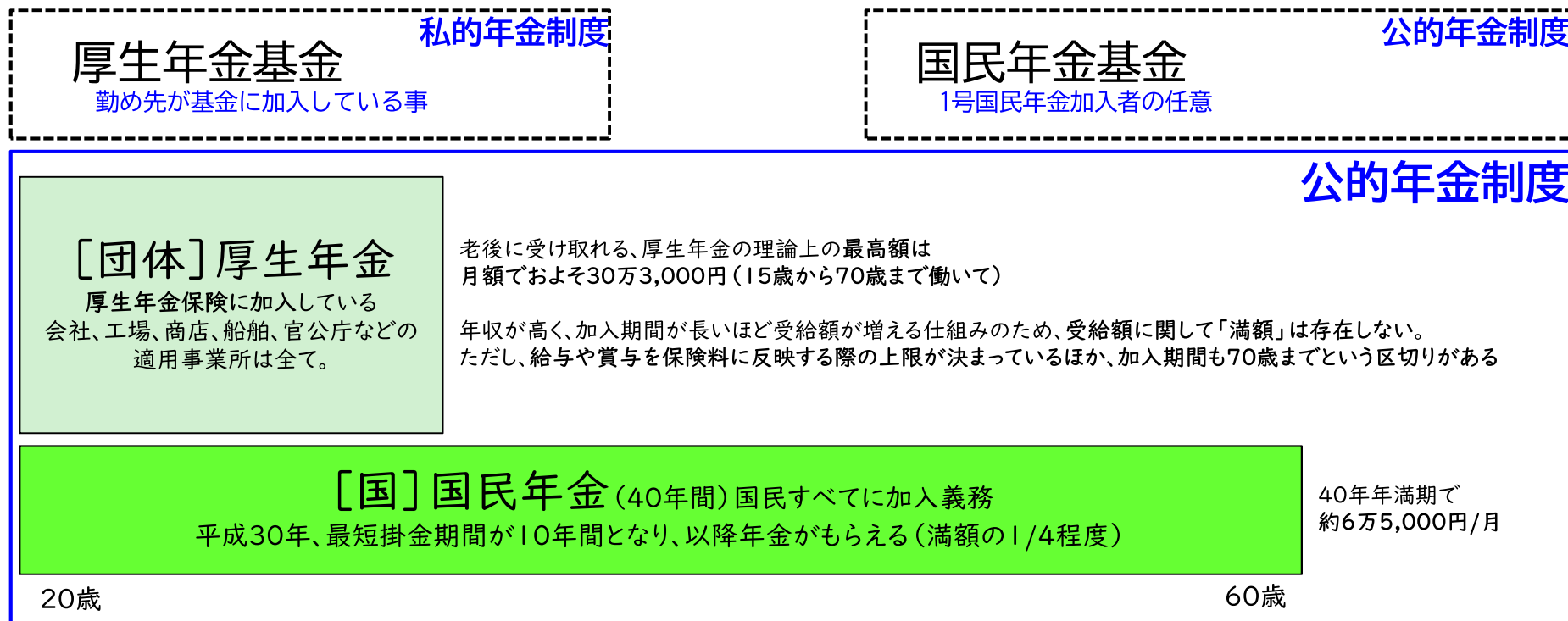
最高額月額30万円程度の厚生年金を受給するには
中学卒業後(15歳)からすぐに働き始め、70歳まで(最長勤続年数)
年収1,200万円程度をキープし続けることが必要なんです。
(一般庶民にはありえませんね)

年金の構造(1)

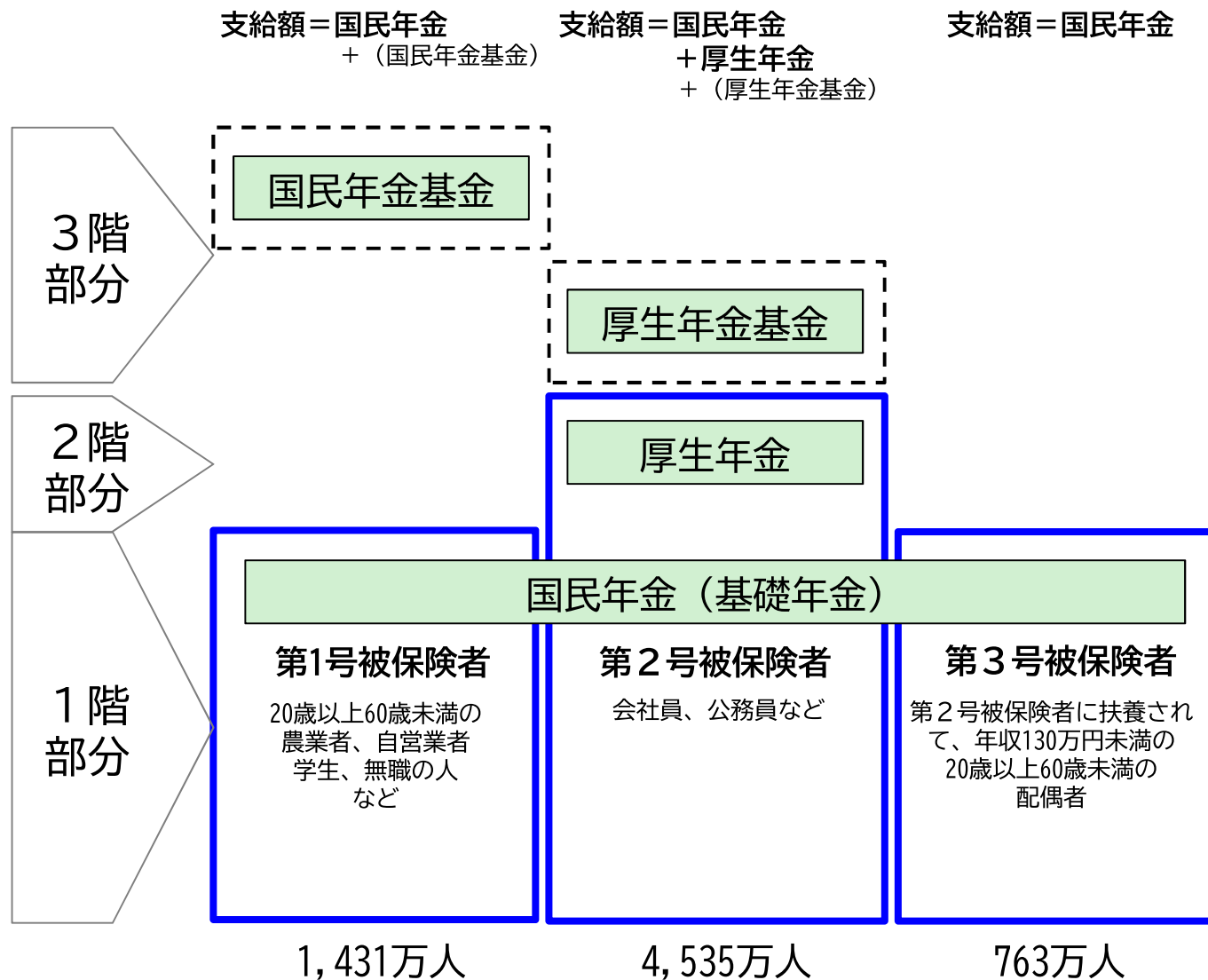
国民年金(基礎年金)は、日本の20歳以上60歳未満のすべての方が加入し、会社員・公務員の方も加入。**厚生年金保険**の2階建て構造になっており、会社員・公務員の方は2つの年金制度に加入しています。

厚生年金基金は、**企業年金(私的年金制度)**になり、**勤め先企業が加入していない場合には残念ながら厚生年金基金に加入することができない。**

国民年金基金制度は、会社員等の方との年金額の差を解消するために創設された公的な年金制度。国民年金とセットで、自営業者など国民年金の老後の所得保障の役割を担う。任意加入ですが、一旦加入すると途中脱退をすることは基本的にできない。

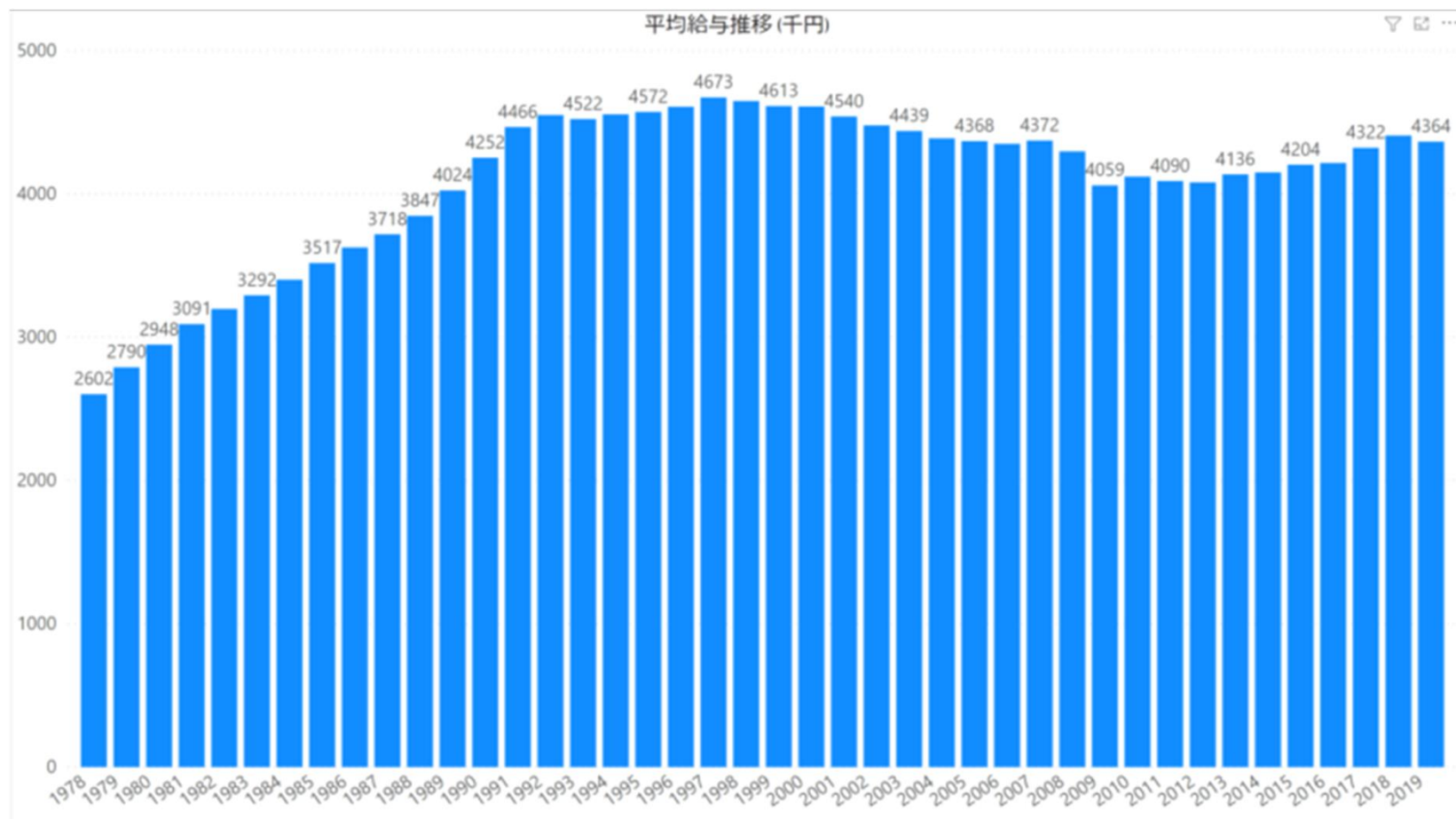


年金の構造(2)



では、40年間の平均年収はどのくらい

1978年から40年働いた、平均年収は約408万円です。



日本の平均収入

世代別年収

年代	平均年収		
	全体	男性	女性
全年代	403万円	449万円	347万円
20代	342万円	365万円	319万円
30代	435万円	474万円	377万円
40代	495万円	562万円	400万円
50代以上	596万円	658万円	424万円

全年代での平均年収は

403万円

年収の割合

年収	割合	
100万円以下	8.1%	約36%
100万円超200万円以下	13.3%	
200万円超300万円以下	14.8%	約32%
300万円超400万円以下	17.4%	
400万円超500万円以下	15.0%	約31%
500万円超600万円以下	10.5%	
600万円超700万円以下	6.7%	
700万円超800万円以下	4.6%	
800万円超900万円以下	2.9%	
900万円超1000万円以下	1.9%	
1000万円超1500万円以下	3.5%	
1500万円超2000万円以下	0.8%	
2000万円超2500万円以下	0.3%	
2500万円超	0.3%	

厚生年金の受給額早見表

ここでは、おおよその年金受給額を知りたいという方に向けて、年収・加入年数別のおおよその厚生年金の受給額早見表をご紹介します。

年収	厚生年金の加入年数(保険料納付期間)						
	10年	15年	20年	25年	30年	35年	40年
300万円	1.5万円	2.2万円	3.0万円	3.7万円	4.5万円	5.2万円	6.0万円
400万円	1.9万円	2.9万円	3.9万円	4.9万円	5.8万円	6.8万円	7.8万円
500万円	2.3万円	3.5万円	4.7万円	5.9万円	7.0万円	8.2万円	9.4万円
600万円	3.2万円	4.8万円	6.4万円	8.0万円	9.6万円	11.3万円	12.9万円

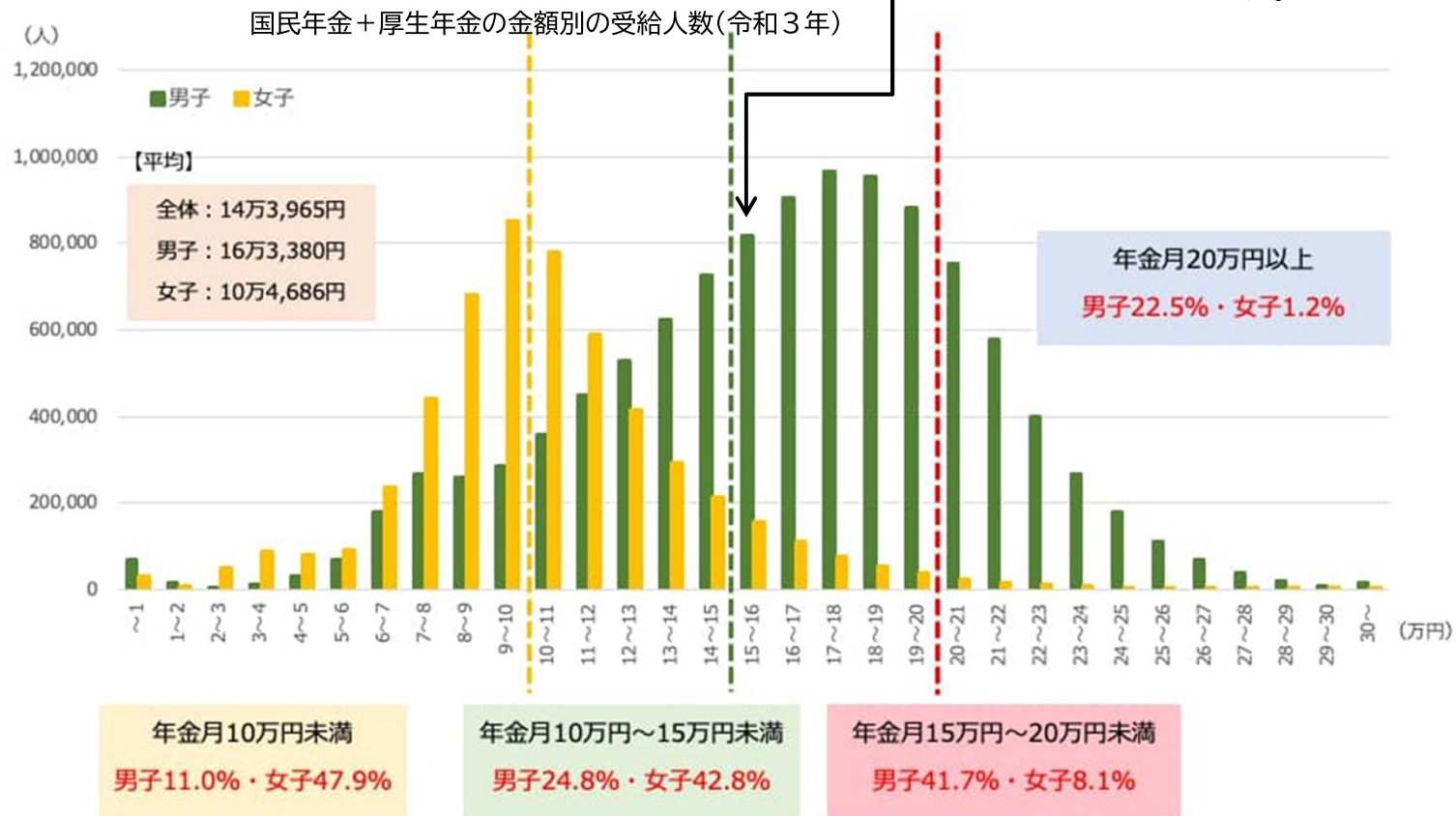
※2003年の制度改正以降の「平均標準報酬額×5,769/1,000×加入月数」によって計算

※百の位以下は切り捨て

日本年金機構が公表している
夫婦2人分の平均的な「厚生年金」と「国民年金」の合計金額は約22万円

厚生年金=¥22万 - (¥6.5万*2) = 約¥9万 ← (40年間の平均年収500万円と推定できる)

一人なら = ¥6.5万 + 約¥9万 = 約15.5万円 平均年収500万円の年金はこのくらいです。



さて、あなたの年金額は試算できましたか

理論上の最高額の老齢年金を受け取るには
次の条件を満たしている必要があります。

高額所得者は、上限で切られますから、これくらいしかないの?となります。

1. 厚生年金への加入期間中、常に標準報酬月額の上限である63万5,000円以上の給与を受け取る。[月額リミット]
2. 厚生年金への加入期間中、賞与を常に年3回、標準賞与額の上限である150万円以上受け取る。[賞与リミット]
3. 中学を卒業後すぐに就職、70歳迄上記条件で継続して働く。[就業リミット]

※ちなみに給与が63万5,000円、150万円の賞与が3回支給される方の
年収は1,212万円です。[年収リミット]

最大、15歳の若さで会社員として1,200万円以上の金額を稼ぐことも
70歳までその年収を維持し続ける事もかなりのレアケースといえます。

足りている人も 足りない人も

**支給額の多少に関わらず
年金は、自分が思っているほど貰えません。**

**人それぞれに年金支給額は異なりますが
年金だけでは足りない。
老後の生活費は、できるだけ早い時期から
計画的に準備することをお勧めします**

作成日：2023年6月23日

参考URL <https://biz.moneyforward.com/payroll/basic/54517/>
厚生年金の最高額は？いくらもらえる？